

【用語集】

用語	意味
■ア行	
ICT	Information and Communication Technology（情報通信技術）の略で、パソコンやスマートフォン等、様々な形状のコンピュータを使った情報処理や通信技術の総称
アクセシビリティ	ある場所から目的地まで、どれだけ簡単にかつ効率的に移動できるかを表す指標であり、様々な交通手段を利用した「到達しやすさ」とも言える。指標としては、到達の時間・距離、移動手段の選択性・多様性、公共交通であれば、運行本数、運賃及び乗換回数が指標となる。
移動制約者	高齢者・障害者より幅広い枠組みで捉えた、交通行動上、人の介助や機器を必要としたり、様々な移動の場面で困難を伴ったり、安全な移動が困難であったり、身体的苦痛を伴う等の制約を受ける人々を指す。訪日外国人増加の中では、公共交通機関等における多言語対応の推進が必要とされており、訪日外国人も対象となる概念ともいえる。
インクルーシブデザイン	誰にとっても使いやすいデザイン
インバウンド	外国人が訪れてくる旅行のことで、特に外国人の訪日旅行者を指す。
ウォークアブル	「歩く」の walk と「～ことができる」の able を組み合わせた「歩きやすい」という意味を持つ造語。国土交通省では、「居心地が良く歩きたくなるまちなか」と定義しており、人々が快適に歩けるような都市空間の形成を目指している。
駅勢圏	駅を利用する需要の存在が期待できる地理的な範囲のことで、鉄道の旅客需要を予測する手法として導入された概念
オープンスペース	市街地内の広場や公開空地に加え、都市開発で生まれる民有地内の建物が建築されていない空間
■カ行	
グリーンスローモビリティ	時速 20km 未満で公道を走ることができる電動車を活用した小さな移動サービス及び車両のこと。走行中に二酸化炭素や排気ガスを出さないため、ガソリン車と比較して環境負荷が低い。
公開空地	1971 年創設の「総合設計制度」において、ビルやマンションなどの敷地内に設けられた、一般の人が自由に入出りできる空間の呼称。当該制度では、敷地内に一定以上の公開空地を有する等の条件を満たす建築物について、容積率の「上乘せ」や高さ制限の「緩和」を与えて、開発者に公開空地を促す狙いもある。
広域公共交通	複数の自治体が連携した都市圏間をつなぐ幹線的公共交通の概念。策定する交通計画の対象範囲によりその対象は様々だが、本計画では、都県間をつなぐ公共交通を想定している。
公共交通マスタープラン	都市の交通に関する課題を解決するために、公共交通サービスの状況や移動実態把握に基づいて策定される総合的な計画の呼称。公共交通機関、交通結節点（乗換地点など）、道路網等の実態を把握し、長期的な都市圏全体の交通政策の在り方を提案する計画

交通政策審議会答申 371 号	国の交通政策審議会陸上交通分科会鉄道部会東京圏における今後の地下鉄ネットワークのあり方等に関する小委員会、令和2年に国土交通大臣から交通政策審議会になされた諮問第371号「東京圏における今後の地下鉄ネットワークのあり方等について」の審議が行われ、まとめられた答申
交通モード	交通手段、輸送方式のことで、徒歩、自転車、クルマ（自家用車など）、タクシー、バス、鉄道などすべての移動手段を指す。
心のバリアフリー	様々な心身の特性や考え方を持つ全ての人々が、相互に理解を深めようとコミュニケーションを取り、支え合うこと。
コミュニティバス	地域住民の移動手段を確保するために地方自治体等が運行するバス
混雑時旅行速度	道路交通センサス（全国道路交通情勢調査）において、道路の一定区間距離を旅行時間で除した値である旅行速度において、混雑時間帯（道路の上下線いずれかで、平日は朝夕のラッシュ時で最も混雑している時間帯）の調査結果
■サ行	
サイクルポート	シェアサイクルの貸出・返却拠点
次世代モビリティ	超小型モビリティ（パーソナルモビリティ）や、自動運転走行の二つの要素を含めた新たなモビリティのことで、AI や IoT などの最新テクノロジーを活用し、従来の交通手段やシステムを進化させた、新しい移動手段やサービスの総称
信用乗車	乗客が乗車券を自己管理することで駅員や乗務員による運賃の収受や乗車券の改札を省略する方式で、複数のドアから乗降する方式の連節車両（広島や宇都宮のLRT）で導入されている方式
GPS 機器	全世界的な衛星測位システム（Global Positioning System）を搭載した機器で、高精度に位置や時刻情報を取得できる。
シェアリングモビリティ	車両を個人で所有することなく、車や自転車などを複数の利用者で共有して利用できるサービスで、電車やバスなど従来の公共交通だけでは移動しにくかった地域をカバーする移動手段
シームレス	シームレスとは「継ぎ目のない」という意味で、乗継ぎ等の交通ターミナルの歩行や乗降に際し、「継ぎ目」をハード・ソフト両面にわたって解消することにより、出発地から目的地までの移動を全体として円滑かつ利便性の高いものとする。
自転車シェアリング（シェアサイクル）	誰もが手軽に利用できる自転車のレンタルシステムのこと。地域内に設置された複数のサイクルポートを相互に利用でき、借りた場所でなくても自転車を返却できる。
スパイラルアップ	らせん状に継続的に改善を重ね、成長していく過程で、PDCA サイクル（計画・実行・評価・改善）を繰り返し、改善で得た経験や教訓を生かして次のレベルアップを目指すこと。
スマートバス停	デジタルサイネージ等を活用し、公共交通機関の時刻表、路線図、バス接近表示等のリアルタイム情報を更新・表示できる機能を持つ停留所
就業人口	総務省の労働力調査では、15歳以上人口を従業者（収入を伴う仕事をしている者）、休業者（仕事も持っていないながら病気などの為に休んでいる

	者)、完全失業者、非労働力人口に分類し、その「従業者」と「休業者」を合せた者を就業者としている。
従業員数	従業地で働いている人の人口
常住人口（夜間人口）	一定の地域に居住（常住）している人口で、「居住者」の数を示す数値
水素ステーション	燃料電池自動車（FCV）に水素を供給する施設で、ガソリンスタンドの水素版
ゼロエミッション東京	世界の平均気温上昇をできるだけ抑え、2050年の世界のCO ₂ 排出実質ゼロに貢献する東京都の目標
タ行	
大会後のレガシー	東京 2020 オリンピック・パラリンピックの大会開催に向けたハード・ソフトの取組を、大会後には都市のレガシーとして、ハード・ソフト両面にわたる多面的な取組を推進し、都民の豊かな生活につなげていく概念
多言語対応	多様な主体が表示、標識、様々な情報提供等の多言語対応に取り組むことにより、外国人旅行者が円滑に移動し、安心して快適に滞在できる都市環境の向上を目指すことへの対応。多言語とは、英語、中国語（簡体字・繁体字）、韓国語の4言語を指す。
昼間人口	一定の地域に昼間に居る人口
デジタルサイネージ	屋外、店頭、公共空間、交通機関など、あらゆる場所で、ディスプレイなどの電子的な表示機器を使って情報を発信するメディアの総称
デジタルデバイス	スマートフォンやタブレット端末など。
東京都市圏パーソントリップ調査	10年に1度、東京都市圏に居住する人を対象に、人、日時、目的、出発地及び目的地、移動手段等についてサンプル調査を実施し、対象圏域における1日の全ての動きを捉えるもの。この結果から、鉄道、自動車、徒歩といった各交通手段の利用割合などを求めることができる。
動的情報	国土交通省の経路検索の充実とバスロケータの利活用では、動的情報「GTFSリアルタイム」としており、ルート of 最新情報（遅延・発着時刻予測及び通過）、車両位置情報（緯度経度等）、運行情報（運行情報の概要及び影響（運休、う回等））を示している。
道路交通センサス	国土交通省道路局が主体となって定期的実施している、道路交通に関する全国規模の調査。一般交通量調査及び道路交通起終点調査を実施し、調査結果は、道路の使われ方、道路整備の現状等を把握し、道路計画の策定や道路の維持・修繕等に活用している。
ナ行	
乗継拠点	バスの幹線から支線などへの乗換地点のこと
ハ行	
バスロケーションシステム	GPS等を用いて、バスの走行位置をバス停等で表示し、バス待ち客の利便を向上するシステム
HARUMI FLAG	中央区晴海で、2020東京オリンピック・パラリンピックの選手村跡地で整備された大規模まちづくり事業のタウンネームで、約5,600戸の分譲住宅・賃貸住宅と商業施設を含めた24棟の建設事業

バリアフリー	高齢者や障害者などが社会生活をしていく上で障壁（バリア）となるものを取り除く（フリー）こと。物理的、社会的、制度的、心理的及び情報面でのバリアなど、全てのバリアを取り除くという考え方
バリアフリールート	高齢者や障害者を含む誰もが安全かつ円滑に移動できるように、段差の解消や設備の設置などによって整備された経路のこと。
ハード・ソフト施策	平成 30 年にバリアフリー法が改正され、公共交通事業者等が、バリアフリーに関するハード・ソフト取組計画の作成、提出及び公表並びに取組状況等の報告及び公表を行う制度が創設された。ハード整備の主なものは旅客施設及び車両のバリアフリー化、ソフト施策の主なものは情報提供及び旅客支援としての誘導案内が挙げられる。
B R T	Bus Rapid Transit の略。輸送力の大きなバスの投入、バス専用レーン、公共車両優先システム等を組み合わせた高次の機能を備えたバスシステム
B R T の事業計画	「都心と臨海副都心とを結ぶ B R T に関する事業計画」で、BRT の運行事業者として決定した京成バス（株）と東京都都市整備局が取りまとめた計画で、BRT 事業の進め方や具体的な事業内容を示したものの。
P T P S	Public Transportation Priority System の略。交通管制システムと連携してバス優先の信号制御を行うシステムで、公共車両優先システムのこと。
P D C A	プロジェクト実行に際し、「計画を立て（Plan）、実行し（Do）、その評価（Check）に基づいて改善（Action）を行う工程を継続的に繰り返す」仕組み（考え方）
マ行	
M I C E	企業等の会議（Meeting）、企業等の行う報奨・研修旅行（インセンティブ旅行）（Incentive Travel）、国際機関・団体、学会等が行う国際会議（Convention）、展示会・見本市、イベント（Exhibition/Event）の頭文字を使った造語
マルチモビリティステーション（モビリティハブ）	バス、カーシェア、シェアサイクル、舟運等様々な交通手段（モビリティ）が集積し、移動の目的に合わせたモビリティの選択・乗換えが自由にスムーズに行える場所で、既往の駅前広場（交通広場）とは異なり、駅以外の場所で展開する比較的コンパクトな空間で、複数のシェアサービスや小型モビリティが利用できる場所
モバイルビッグデータ	スマートフォン等のモバイルデバイスから取得される位置情報データ
モビリティマネジメント	一人一人のモビリティ（移動）が、社会にも個人にも望ましい方向に自発的に変化すること（行動変容）を促す、コミュニケーション施策（交流・体験等）や情報発信を中心とした交通政策
ヤ行	
ユニバーサルデザイン	まちづくりにおいて、高齢者や障害者をはじめ誰もが分け隔てなく快適に利用できるよう、形状や機能を設計・開発することで、バリアフリーの考え方を更に進めた考え方

ラ行	
ラストワンマイル	最寄り駅やバス停から自宅までの区間など、最終目的地までのワンマイル（約 1.6km）程度の区間のことを言う。
レベル 4 自動運転サービス	運転の自動化に伴う 5 段階に分かれたレベルで、自動運転レベル 4 は、「特定条件下（場所や天候、速度）などにおける完全自動運転のレベル」で、自動運転システムが主体となって車を操縦し制御を行うレベル。なお、レベル 5 が完全自動運転（ドライバーズフリー）で、常にシステムが全ての運転を行うレベル。